

## 小学校 5年 国語 メディアのあり方について考えを深めるための番組活用

## シンキングツールを使った対話的活動を通して

横浜市立新石川小学校 武井 三也

## 【実践報告の概要】

1人1台情報端末が整備され、児童がメディアを能動的に利用していく機会が増えている中で、メディア・リテラシーを育成する必要性が高くなった。そこで本実践では、小学5年生・国語において、学校放送番組「メディアタイムズ」を活用し、1人1台情報端末でシンキングツール（クラゲチャート）に考えをまとめ・伝える対話的な学習活動を行った。結果として、番組活用とシンキングツールを用いた対話によって、メディアのあり方に関する「意見文の質が高まったこと」「対話が促されたこと」を確認できた。

## 【取組の具体】

## 【1時間目】

- 生活経験から、メディアとのかかわり方について振り返り、学習課題をつくる。

## 【2時間目】

- 教材文「想像力のスイッチを入れよう」を読み、自分の考えをもつための計画をたてる。

## 【3時間目】

- 教材文全体の文章構成や展開をおさえて読み、内容の大体をとらえる。

## 【4時間目】

- 事例と意見との関係について叙述を基におさえ、事例を挙げて説明する良さを考える。

## 【5時間目】

- 筆者のいう「想像力のスイッチ」について考え、筆者の意図を捉える。

## 【6時間目】

- 筆者の考えの中心を要旨にまとめる。

## 【7時間目】

- NHK 学校放送番組『メディアタイムズ』第6回「フェイクニュースを見抜くには」を視聴し、筆者の考えとの共通点を整理しながら、メディアとのかかわり方について自分の考えをもつ。

## 【8時間目】

- メディアとのかかわり方について対話し、自分の考えを深める。
- 対話をふりかえり、自分の考えを整理する。

## 【9時間目】

- メディアとのかかわり方について自分の意見をまとめる。
- 友達と意見文を共有し、考えを広げる。
- 単元のふりかえりをする。



## 【活用番組と実践者による番組分析】

メディアタイムズ「フェイクニュースを見抜くには」『メディアタイムズ』は、メディアのあり方を考える上で、送り手としての立場も考えることができる内容が含まれている。『メディアタイムズ』は、メディアのあり方について考えるきっかけとなる異なる2つの立場が問いとして提示される。これを考えることで、送り手としての立場も考えることができる。

## 【本実践における工夫点】

## 【教材文の読み取りと番組活用】

「想像力のスイッチを入れよう」では、情報を受け取る側の視点からメディアを捉え、「メディアタイムズ」では、メディアの送り手側の視点からメディアを捉えることで、より深く「メディアのあり方」を考えられるようにした。

## 【1人1台端末×シンキングツール】

1人1台情報端末でクラゲチャートに考えをまとめ・伝える対話的な学習活動によって、メディアのあり方に関する「意見文の質の向上」、「対話の促進」を図った。クラゲチャートをお互いに閲覧しながら、対話を進めることで、自分の意見との共通点・相違点を見つけやすくなると考えた。

## 【シンキングツールを用いた書く活動】

対話後のシンキングツールをもとに意見文を書くことで、自分の考えが整理され、全児童が自分の考えを意見文に書き表すことができた。

## 【本実践の成果と課題】

1人1台情報端末でクラゲチャートに考えをまとめ・伝える対話的な学習活動によって、メディアのあり方に関する「意見文の質が高まったこと」「対話が促されたこと」を確認できた。「メディア・リテラシーを育むためにメディアのあり方に関する意見文を書く授業実践」において1人1台情報端末を活用する有効性を確認することができた。一方、そのような記述を確認できなかった学習者の思考プロセスがどのようなものだったかについては、今後の課題である。